

ミャンマー復興 室蘭から支援

3月28日に発生した大地震で甚大な被害を受けたミャンマーの復興を支援しようと、室蘭市の学校法人北斗文化学園（母恋北町）は17日午前10時半から、チャリティーイベント「HOKUTOフェア」を開く。同学園で日本語や介護、保育などを学ぶミャンマー人留学生64人とその家族に幸い被害はなかったが、留学生たちは「母国のために力になりたい」と話す。販売する手芸品づくりや披露するダンス、歌の準備を進めている。

北斗文化学園 あす留学生ら慈善催し

イベントには同学園が運営する二つの専門学校の学生が関わり、北海道福祉教育専門学校（同）で実施する。同校は留学生が手がけた手芸品（1

00～500円）を販売するほか、ミャンマーの伝統行事「水かけ祭り（ティンジャン）」の踊りや歌のステージ、ミャンマーメーク体験などを企



17日のチャリティーイベントに向け、販売するミサンガを制作するミャンマー人留学生

画。インターナショナル調理技術専門学校は、学生が調理したカレー（500円）などを販売する。午後2時からは、歌手の倉橋ルイ子さんとギタリストの曾山良一さんによるゲストステージも予定する。

入場は無料。会場内に募金箱を設置し、原価を除いた販売品の収益と合わせて、ミャンマーの被災地に届ける。

福祉教育専門学校の日本語教育課程（1年制）で学ぶノーダータウさん（22）は「ニュースで地震のことを知って、泣きたい気持ちになった。母国に多くの支援を届けたい」。サイミンウさん（23）は「たくさんの方にイベントに来てもらい、

母国を応援してもらいたい」と話す。

在北海道ミャンマー連邦共和国名誉領事でもある

る沢田乃基校長は「内戦の影響で震災からの復興は進まず、日本での報道も減っている。イベントを通じ、留学生の声から『震災後の現在のミャンマー』を知ってほしい」と願っている。

（村上真緒）